妊婦や子供に影響はないのでしょうか？

放射線による影響は被ばくした部位しか現れません。もし妊娠を知らずに検査をしたとしても下腹部に大量の放射線を受けない限り胎児に対する影響を心配する必要はありません。

妊娠2週目から8週目の間は放射線に対して大変敏感な時期であるのは確かです。

この時期に100ミリグレイ（mGy）以上の放射線を受けると場合によっては何らかの奇形や体重の少ない赤ちゃんが生まれるかもしれません。

たとえば、下腹部の被ばくが比較的多い腰のレントゲンを5枚撮ったとしても胎児が受ける線量は10mGy程度です。2）

通常の検査による放射線が原因で奇形や低体重の子供が生まれることはありません。

子供は大人に比べて放射線による影響を受けやすいのは確かです。またこれからの一生のうちでどれくらい被ばくするかがわからないので、検査では撮影範囲を最小限にしたり放射線の量を極力減らすように努力しています。

※グレイ（Gy)は放射線のエネルギーがどれくらい物質に吸収された値で人名に由来します。

生殖腺に放射線を受けると子供ができなくなるのですか？

少しでも被ばくしたら不妊になるのではなく、一定の線量以上被ばくしないと不妊にはなりません。一時的不妊や永久不妊になる最低の線量をしきい線量といいます。

そのしきい線量を表に示します。

	男性	女性
一時不妊	150 mGy	650 mGy
永久不妊	3.5～6 Gy	2.5～6 Gy

不妊になるのは生殖腺が上記の線量を被ばくした場合だけで身体の他の場所を被ばくしても不妊にはなりません。

通常の医療検査で男性、女性ともに、生殖腺が上記の線量以上被ばくする事はありませんから、生殖腺が直接被ばくしたとしても不妊になる事はありません。3）

参考（引用）文献

1）財）日本原子力文化振興財団：「原子力」図面集2001-2002

2）草間朋子：放射線防護Q＆A

3）社団法人日本放射線技師会　医療被ばくガイドライン委員会・編：医療被ばくガイドライン

よく受ける質問を中心に冊子を作成しました。少しでも放射線について理解していただき、無用な誤解や不安が取り除ければ幸いです。

放射線に関して専門の知識を持った診療放射線技師が管理をしています。安心して検査を受けてください。

わかりやすい

放射線の疑問

社団法人

京都府放射線技師会

京都府放射線管理士会・編

電話・FAX　(075)　802-0082

E-mail:kyohogi@mbox.kyotoInet.or.jp

ご不明な点ご質問等がございましたら担当者に申し出てください。